

あ
い
ち
の
伝
統
的
工
芸
品

「あいちの伝統的工芸品」

愛知県には、現在、以下の15品目の伝統的工芸品があります。

- ①有松・鳴海絞 …… P1
- ②常滑焼 …… P2
- ③名古屋仏壇 …… P2
- ④三河仏壇 …… P3
- ⑤豊橋筆 …… P3
- ⑥赤津焼 …… P4
- ⑦岡崎石工品 …… P4
- ⑧名古屋桐箆筒 …… P5
- ⑨名古屋友禅 …… P5
- ⑩名古屋黒紋付染 …… P6
- ⑪尾張七宝 …… P6
- ⑫瀬戸染付焼 …… P7
- ⑬尾張仏具 …… P7
- ⑭三州鬼瓦工芸品 …… P8
- ⑮名古屋節句飾 …… P8

有松・鳴海絞

あり まつ なる み しばり



■ 伝統的工芸品指定年月日
昭和50年9月4日

■ 主な製品名
呉服類、浴衣他、インテリア類等

■ 産地組合等
愛知県絞工業組合
〒458-0924
名古屋市緑区有松3405
☎ 052-621-1797
FAX 052-621-1244

産地の歴史

慶長年間（1596～1615年）、名古屋城築城に来ていた人から伝えられた絞の技法を用いて、竹田庄九郎が手拭い（豆しばり）をつくり、「九九利絞」として売り出したのが始まりといわれています。

特徴

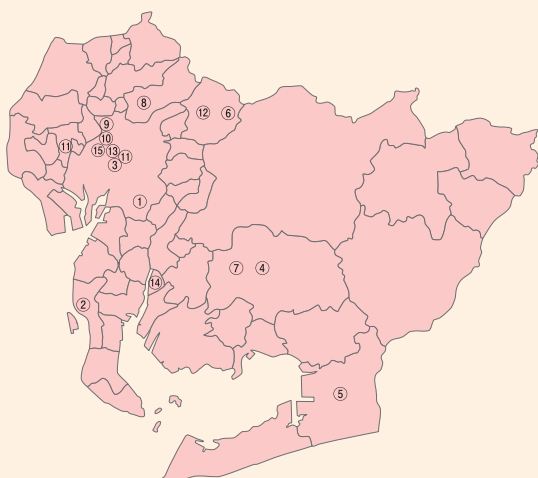
「括り」の技法は、蜘蛛絞、嵐絞、雪花絞など約70種類にも及び、手作りならではの味わいを生み出しています。振袖、訪問着などの絹織物から、木綿の浴衣や服地、インテリア等まで、幅広い製品が作られています。

製造方法

図案どおり型紙を彫り、布地に青花液あおばなえきを用いて下絵刷りをします。そしてその布を綿糸で括り、染め上げます。糸で括られた部分には染料が乗らず、糸抜きをすると様々な模様が浮かび上がります。最後に蒸気をあてて、湯のしをして完成です。それぞれの専門職人の手を経て平均50～60日できあがります。

地域ブランド

「有松鳴海絞」は平成19年2月2日に地域団体商標に登録されています。



※地図は各工芸品の産地組合等の位置を示しています。

常滑焼

とこ なめ やき



■伝統的工芸品指定年月日
昭和51年6月2日

■主な製品名
茶器、花器、酒器、置物、植木鉢

■産地組合等
とこなめ焼協同組合
〒479-0017
常滑市字椎池10番地
☎ 0569-35-4309
FAX 0569-34-8893
URL <http://www.tokonameyaki.or.jp/>

産地の歴史

日本六古窯の一つに数えられ、その起源は平安後期にまでさかのぼります。古来より大瓶・大壺などの日用雑器が有名でした。桃山時代には茶道具、江戸時代には、この地で産出する鉄分の多い陶土の性質を巧みに生かした朱泥焼や白泥焼、火色焼を作り、今日の基礎が築かれました。

特徴

歴史が物語るように、良質な陶土の性質を生かして、多種多様な製品が生産されています。なかでも、粘土に含まれている鉄分を赤く発色させることにより生まれる朱泥は、常滑焼の代表作として有名です。

製造方法

ろくろ成形、押型成形または手ひねり成形により成形した後、加飾、施釉を経て焼成します。無釉製品の場合は、常滑焼独自の素地磨きを行い、焼成後に羽毛でさらに磨きをかけ、艶を出して完成します。

地域ブランド

「常滑焼」は平成19年1月19日に地域団体商標に登録されています。

名古屋仏壇

なごやぶつだん



■伝統的工芸品指定年月日
昭和51年12月15日

■主な製品名
仏壇

■産地組合等
名古屋仏壇商協同組合
〒460-0016
名古屋市中区橋1丁目6番5号
☎ 052-321-5608
FAX 052-322-6779
URL <http://nagoya-butsudan.net/>

産地の歴史

元禄8年(1695年)、高木仁右エ門がこの地に仏壇専門店「ひろや」を創業したのが始まりとされています。東本願寺造営に参加した優れた職人たちが、良材「木曾檜」を用いて仏壇工芸を発展させ、今日の基礎を形成しました。

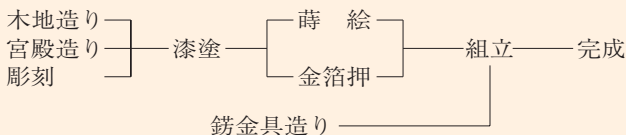
特徴

宮殿御坊造りを代表とする豪華な構造と、台の部分が高く、「みつまくり」を備えていることが特徴とされています。水害から仏壇を守るとともに、台の中に諸仏具を配置、収納するための生活の知恵の結晶です。

製造方法

八職と称する専門職(木地師、荘厳師、彫刻師、鋳金具師、塗師、蒔絵師、箔置師、仕組師)による合作です。

図で示すと次のとおりとなります。



地域ブランド

「名古屋仏壇」は平成19年12月14日に地域団体商標に登録されています。

三河仏壇

み かわ ぶつ だん



■伝統的工芸品指定年月日
昭和51年12月15日

■主な製品名
仏壇

■産地組合等
三河仏壇振興協同組合
〒444-0032
岡崎市門前町 51
☎ 0564-24-7766
FAX 0564-24-7766
URL <https://www.mikawabutudan.com/>

産地の歴史

文献によると元禄17年(1704年)、^{やはしがわ}矢作川から運ばれる^{ひのき}松、^{しのぎ}杉、^{しょうほけ}檜などの良材と、三河北部の漆を材料として、^{しょうほけ}仏壇師 庄 八家が製造したのが始まりといわれています。

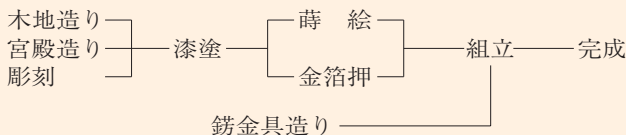
特徴

三河地方では仏壇を押し入れに安置する習慣だったため、押し入れに合わせた高さ、奥行、幅と、その条件の下でいかに豪華に見せ、かつ扱いやすくするかに工夫が凝らされてきました。そのため台は低く、なげしは「うねり長押」となっています。

製造方法

八職と称する専門職(木地師、宮殿師、彫刻師、^{かざりかな}鍍金具師、^{ぬり}塗師、^{まきえ}蒔絵師、^{はくおし}箔押し師、^く組立師)による合作です。

図で示すと次のとおりとなります。



地域ブランド

「三河仏壇」は平成20年6月27日に地域団体商標に登録されています。

豊橋筆

とよ はし ふで



■伝統的工芸品指定年月日
昭和51年12月15日

■主な製品名
筆

■産地組合等
豊橋筆振興協同組合
〒440-0804
豊橋市呉服町44番地
☎ 0532-52-5514
FAX 0532-54-2605

産地の歴史

文化元年(1804年)、京都の鈴木甚左衛門が、吉田藩(豊橋)から招かれ製造したのが始まりといわれています。下級武士の副業として取り入れられたことと、穂首の原材料となる^{たぬき}狸、^{いたち}いたちなどの獣毛が容易に入手できたことなどから、産地として発展しました。

特徴

原材料の混毛に、水を用いて交ぜあわせる「練りませ」の工程を用いることに、豊橋筆最大の特徴があります。この工程により生み出される、「墨含みが良く、墨はけが遅く」使いやすい筆は、高級品として有名です。

製造方法

約36の筆作りの工程は、全部手作りで行われています。工程を大別すると、選別→毛もみ→寸切り→練りませ→^{うわげ}上毛かけ→仕上げ→^{こくめい}刻銘となります。

一人の職人が一日に作る筆の数は細筆で50本、太筆で30本といわれています。

地域ブランド

「豊橋筆」は平成19年5月11日に地域団体商標に登録されています。

赤津焼

あか づ やき



■伝統的工芸品指定年月日
昭和52年3月30日

■主な製品名
茶器、花器、飲食器

■産地組合等
赤津焼工業協同組合
〒489-0022
瀬戸市赤津町43
☎ 0561-82-0149
FAX 0561-82-0149

産地の歴史

日本六古窯の一つであり、その起源は奈良時代の須恵器にまでさかのぼります。鎌倉時代に釉薬を用いたのはこの地方のみであったといわれています。その後の安土・桃山時代には、茶道の発展の影響を受け、志野、織部など現在の赤津焼の根幹をなす技法が確立しました。

特徴

赤津焼の特徴は、織部釉、志野釉、黄瀬戸釉、古瀬戸釉、灰釉、御深井釉、鉄釉の7種類の釉薬と、へら彫り、印花、櫛目、三島手などの12種類の多彩な装飾技法にあります。これらを駆使し、茶道具、華道具から家庭用品まで幅広く焼かれています。

製造方法

ろくろ成形、たたら成形または手ひねり成形により成形し、仕上げ、乾燥の後、絵付や施釉を行い、焼成します。織部は焼成後、ドングリの傘から出るシブを使い、表面の膜を除去します。

岡崎石工品

おか ざき せつ こう ひん



■伝統的工芸品指定年月日
昭和54年8月3日

■主な製品名
燈籠、多重塔、鉢物、石塔、彫刻、鳥居など

■産地組合等
岡崎石工団地協同組合
〒444-0936
岡崎市上佐々木町字
梅ノ木48番地
☎ 0564-31-3823
FAX 0564-31-1685

産地の歴史

天正18年(1590年)、岡崎城主田中吉政が、城下町の整備のために河内・和泉の石工を招いたのが始まりといわれています。近くの山から良質の花崗岩がとれたこと、矢作川を利用して重い石燈籠を江戸・大阪まで運ぶことができた、などの好条件によって繁栄しました。

特徴

神社仏閣の燈明用として生まれた石燈籠が庶民の暮らしの中に取り入れられ、夜道を照らす常夜燈や庭園装飾用へと用途を広げていきました。岡崎石工品として伝統的工芸品に指定され、代表的な「石燈籠」のみならず、「石塔」「彫刻」「鳥居」などあらゆる製品が製作されています。

製造方法

代表的製品である雪見燈籠は、岡崎花崗岩などを原材料として、さしがね等を用いて墨出しをし、コヤスケ、ノミ、タタキ、ビシャン、小べら等の道具を使って仕上げ、下から足、受、火袋、笠、玉と乗せ上げて据え付けます。

名古屋桐箆笥

なごやきりたんす



■伝統的工芸品指定年月日
昭和56年6月22日

■主な製品名
総桐箆笥・総桐チェスト

■産地組合等
名古屋桐箆笥組合
〒486-0903
春日井市前並町前並8-4
「名古屋桐たんす工房 出雲屋」内
☎ 0568-34-0081

産地の歴史

約420年前、名古屋城の築城に携わった職人たちが城下町に定着し、箆笥や長持を製造したのが始まりといわれています。材料となる飛騨桐(岐阜県)の産地に近く、良材が容易に入手できたことも、その発展を大きく促しました。

特徴

大切な衣類の保管に最も適した名古屋桐箆笥は、伝統的な技法による手造りによって製作されています。

近年では着物だけでなく、洋服や革製バッグの収納等に適した、生活様式に合ったデザインチェストや仕上げ方法を採用し、後世に残る製品造りに努めています。

製造方法

製造工程は数年間、アク抜き乾燥させた桐材を用いて、大まかに、造材、木取り、狂い直し、加工、加飾、金具付け等に分けられ、130余の工程を一人の職人で作ります。桐無垢板を使用し、各部材の接合は伝統的な組み接ぎ法を用い、仕上げにかかるかどの根を束ねたうづくりを用いて磨き、やしゃぶし液に砥粉を混ぜた液で着色した後、ロウで磨き、たんす表面を仕上げ、引戸や金具を取付けて一棹の総桐たんすが完成します。

名古屋友禅

なごやゆうぜん



■伝統的工芸品指定年月日
昭和58年4月27日

■主な製品名
訪問着、留袖、着尺地他

■産地組合等
名古屋友禅黒紋付協同組合連合会
〒462-0858
名古屋市北区大蔵町6番地
☎ 052-981-0997
FAX 052-981-0997

産地の歴史

尾張藩主徳川宗春の頃(1730~1739年)に、京都、江戸などから友禅師が往来し、その技法が伝えられたことに始まります。しかし宗春失脚後、質素儉約が励行されるようになり、模様の配色も色数を控えたものへと移行しました。

特徴

当地方の土地柄を反映して、単彩濃淡調の色使いのなかに幽玄さを秘めた“渋”さを特徴としています。

製造方法

手描友禅：白生地を仮絵羽縫し、青花液で下絵を描き、色挿しをします。挿した色を定着させるために蒸した後、模様部分に伏糊をして地色を引染し、再び蒸して水洗し、最後に箔置きなど彩色仕上げをします。

型友禅：白生地を友禅板に張り付け、伊勢型紙などを使用して柄付けをします。柄付け後、模様部分に伏糊をし、地染を行い、蒸した後水洗して仕上げます。

名古屋黒紋付染

なごやくろもんつきぞめ



■伝統的工芸品指定年月日
昭和58年4月27日

■主な製品名
着尺地、羽尺地

■産地組合等
名古屋友禅黒紋付協同組合連合会
〒462-0858
名古屋市北区大蔵町6番地
☎ 052-981-0997
FAX 052-981-0997

産地の歴史

慶長15年(1610年)、尾張藩士小坂井家が、藩内の旗、^{のぼり}幟などの製造にあたったことが始まりといわれています。その後、現在につながる紋型紙板締め^{いばせ}の技法が生み出されました。

特徴

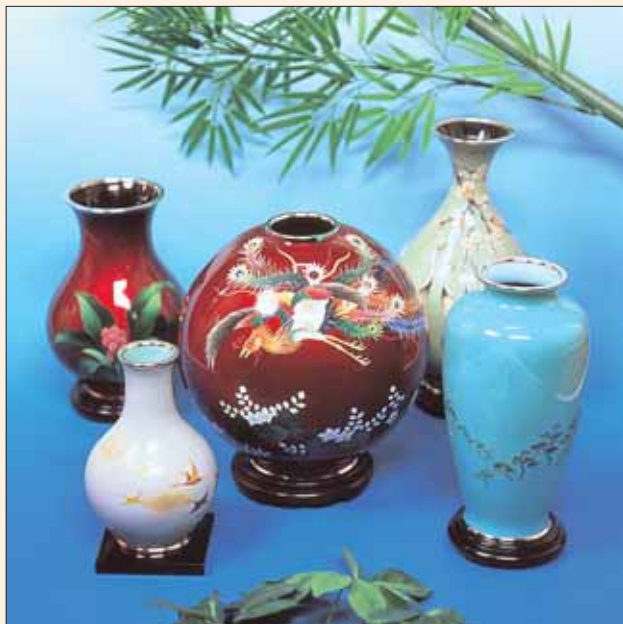
染色方法には、^{ひたしぞめ}浸染と^{ひきぞめ}引染の二種類があります。浸染では、紋型紙を使用し、家紋の形を染め抜きます。染液の温度を高めにし、時間をかけて染めるため、堅牢度^{けんろうど}の高い黒色が得られます。引染では、黒の色艶^{いろなめ}の優れた「トロ引黒染」または「三ツ引黒染」の技法を用いることに特徴があります。

製造方法

浸染では、生地に紋型紙を貼り、それを生地^{ちぢ}の両面から^{もんあてかなあみ}紋当金網で押さえて締め付け、下染めをした後、黒の染料液に入れて染め上げます。引染では、紋の部分に伏糊^{ふしご}をして、「トロ引黒染」や「三ツ引黒染」技法で、^{はけ}刷毛を使用して染め上げます。最後に白く残った部分に紋章を手描きで入れて完成します。

尾張七宝

おわりしっぽう



■伝統的工芸品指定年月日
平成7年4月5日

■主な製品名
花瓶、額、酒器、皿、宝石箱等

■産地組合等
尾張七宝協同組合
〒497-0002
あま市七宝町遠島十三割2000
☎ 052-441-9802
FAX 052-441-9802

産地の歴史

天保年間(1830~1844年)、尾張国の梶常吉が、オランダ船により輸入された七宝の皿を手がかりにその製法を発見し、改良を加えたのが始まりとされています。

特徴

土を成形して焼き上げる陶磁器とは違い、七宝焼は、銅又は銀の金属素地を用い、その表面にガラス質の釉薬^{ゆうやく}を施し、花鳥風月、風景などの図柄をあしらったところに特徴があります。特に図柄の輪郭となる部分に銀線を施す有線七宝は尾張七宝の代表的な技術です。

製造方法

銅(銀)板を用いて花瓶、皿などの形の金属素地を作り、その上に墨で下絵を描きます。有線七宝の場合は、下絵にそってリボン状の銀線を特殊な糊で立てて植え付け(植線)、ガラス質の釉薬^{せゆう}を施した(施釉)ものを焼成^{しょうせい}します。施釉・焼成は3~7回程度繰り返し行います。その後、研磨を行い、飾り付けを施して完成となります。

地域ブランド

「尾張七宝」は平成21年11月13日に地域団体商標に登録されています。

瀬戸染付焼

せ と そめ つけ やき



- 伝統的工芸品指定年月日
平成9年5月14日
- 主な製品名
茶器、花器、室内装飾品、食卓用品
- 産地組合等
瀬戸染付焼工業協同組合
〒489-0805
瀬戸市陶原町1-8
☎ 0561-82-4152
FAX 0561-82-4157

産地の歴史

19世紀初め、加藤民吉等が磁器の焼成技術を瀬戸の地で広めたことが起源となっています。その後、絵師から絵付の指導を受け、南宋風の絵画を施す技術などが加わって急速に発展し、今日の瀬戸染付焼の基礎が確立されました。

特徴

白地の素地に絵付を行い、施釉後焼成したものが染付です。藍色を基調とした色彩で繊細な自然画や鳥、花などを筆で描く技術と、潤いを持った仕上がりにするため、本焼成時に「ねらし（一定時間窯の温度を高温のまま維持）」を行い釉薬を熟成させるところに特徴があります。

製造方法

ろくろ成形、手ひねり成形等で成形し、表面をなめらかに仕上げ、乾燥後に素焼をした素地の表面に、直接筆で呉須絵具等を用いて下絵付を行います。その後釉薬を施し、本焼成して完成します。

尾張仏具

お わり ぶつ ぐ



- 伝統的工芸品指定年月日
平成29年1月26日
- 主な製品名
仏具
- 産地組合等
尾張仏具技術保存会
〒460-0016
名古屋市中区橋2-1-6
☎ 052-322-3131
FAX 052-322-3135
URL <https://owaributsugu.com/>

産地の歴史

江戸期の名古屋城下における下級武士の内職が仏具生産の始まりと伝えられています。明治期より、量産性を発展させ、卸商を中核とする問屋制家内工業として発達しました。大正、昭和期に渡り販路を拡大し、全国の仏具産地が尾張地区で生産された仏具を取り寄せて販売しました。

特徴

木製漆塗製品が中心で、各工程において宗旨宗派、寺院用具・在家用具の違いなど製品の細かなところまで専門化され、良質な製品を大量に供給できます。又、木魚・丸金台は現在では日本全国で尾張地区でしか生産されていません。

仏具以外にも神具、祭礼具などの製造も行っています。

製造方法

尾張仏具は製作工程ごとの職人による分業により作られています。

木地製作・彫刻・漆塗・彩色・銹金具製作・金箔置き・蒔絵・沈金などの工程を必要に応じて組み合わせ、専門性の高い伝統的な技術を持った職人の手仕事によって完成されます。

三州鬼瓦工芸品

さんしゅう おにがわら こう げい ひん



■伝統的工芸品指定年月日
平成29年11月30日

■主な製品名
鬼瓦、置物、エクステリア類等

■産地組合等
三州瓦工業協同組合
〒444-1325
高浜市青木町6丁目2番地13
☎ 0566-53-1420
FAX 0566-52-0435

産地の歴史

享保五年（1720年）の徳川吉宗による瓦葺奨励の後、地場産業として本格的に栄え始めました。西三河地方に流れる矢作川が猿投山の粘土を下流域に運び、瓦の原料となる良質な粘土が豊富に採れたことと、海に面し海運で江戸に輸送できたことが発展の要因と考えられています。

特徴

製品に釉薬をかけず、焼成後の高温状態の時に酸素を遮断して強制還元（燻化）を行うことで、「いぶし銀」と呼ばれる独特の発色が現れます。

瓦屋根の中で、魔除け、厄除け、繁栄や富の象徴として飾られてきた鬼瓦が、庶民の暮らしの中に取り入れられ、床の間飾りや玄関飾りへと用途を広げてきました。

また、近年では国宝・重要文化財などの復元も手掛けています。

製造方法

「型紙」を使った総手造り、または「石膏型」により粗成形し「木べら」または「金べら」を用いて手作業によって仕上げます。焼成後に「込み（燻化）」を行い、製品の表面に炭素被膜を形成することで「いぶし銀」を発色させます。

名古屋節句飾

なごやせつくかざり



■伝統的工芸品指定年月日
令和3年1月15日

■主な製品名
(人形)雛人形・五月人形・風俗人形・市松人形
(幟旗類)武者絵幟・鍾馗旗・鯉のぼり
(雪洞)雪洞・燭台

■産地組合等
中部人形節句品工業協同組合
〒451-0043
名古屋市西区新道二丁目15番17号
☎ 052-564-1020
FAX 052-564-1021
URL <http://www.sekku.or.jp/>

産地の歴史

尾張徳川家の城下町として、名古屋は江戸前期より各種の工芸技術が発達していました。

【人形】江戸後期には『尾張年中行事絵抄』に記されるほど、工芸的に高度に発達していました。

【幟旗類】江戸後期には『尾張年中行事絵抄』に記されるほど、早くから独自に発達していました。

【雪洞】江戸時代より提灯製造が盛んであり、節句用の雪洞もその一種として作られていました。

特徴

【人形】京都と東京という二大産地に拮抗するとともに、東西の折衷様というべき名古屋様式が特徴です。

【幟旗類】他所に見られない名古屋独特の大幟や腹部を鮮やかな黄色とした「黄腹の鯉」が特徴です。

【雪洞】美濃和紙、小原和紙などの良質の和紙や、木曾檜、松などの木工素材が豊富で折りたたみ不可など形状変更のできない火屋物提灯などが特徴です。

製造方法

【人形】頭づくり・胴づくり→衣装づくり→着せ付け→振り付け→仕上げ→完成

【幟旗類】枠掛け→筒引き→染め・天日干し→水洗い→裁断・縫製・口輪付け→完成

【雪洞】火屋づくり→骨づくり→組み立て→塗り→内貼り→絵付け→金具装着→完成

あいちの伝統的工芸品「見学・体験・購入」施設・事業所

※御利用には事前予約が必要です。必ず施設・事業所へ事前に御連絡ください。

※以下に記載のない伝統的工芸品につきましては、各伝統的工芸品の産地組合等へお問い合わせください。

工芸品名	施設・事業所名	住所・電話番号・HP アドレス	
有松・鳴海絞	有松・鳴海絞会館	名古屋市緑区有松 3008 ☎ 052-621-0111 http://www.shibori-kaikan.com/	見学・体験(有料)・購入
有松・鳴海絞	(株)竹田嘉兵衛商店	名古屋市緑区有松 1802 ☎ 052-623-2511 http://www.takeda-kahei.co.jp/	購入
有松・鳴海絞	(株)山上商店	名古屋市緑区有松 3573 ☎ 052-623-2186 http://www.arimatsu-shibori.com/	購入
有松・鳴海絞	(資)中瀆商店	名古屋市緑区有松 2306 ☎ 052-621-1046 http://www.arimatsunomachi.com/map38.html	購入
有松・鳴海絞	(株)スズサン	名古屋市緑区有松 1905 ☎ 052-825-5636 https://www.suzusan.com/	体験(有料)・購入
有松・鳴海絞	しぼりの久田 (愛知絞販売株)	名古屋市緑区有松 616 ☎ 052-621-1067 https://www.shibori-hisada.com/	購入
有松・鳴海絞	(有)絞染色 久野染工場	名古屋市緑区境松 1 丁目 609 ☎ 052-621-1041 https://shibori-zome.com/	体験(有料)
有松・鳴海絞	(株)張正	名古屋市緑区鳴海町米塚 40 ☎ 052-621-1044 https://siboriharisyu.jimdofree.com/	購入
有松・鳴海絞	早恒染色株	名古屋市緑区有松 1034 ☎ 052-621-3705	見学・体験(有料)
有松・鳴海絞	(有)こんせい	名古屋市緑区鳴海町字下中 21 ☎ 052-624-0029 https://shiborikonsei.com	見学・体験(有料)
有松・鳴海絞	いとわ	名古屋市緑区有松 3026 ☎ 090-5860-6734	購入
常滑焼	常滑市陶磁器会館	常滑市栄町 3-8 ☎ 0569-34-8888	見学・購入
常滑焼	角山陶苑	常滑市栄町 3-116 ☎ 0569-34-4152 http://www.tac-net.ne.jp/~kakuzan/	見学・体験(有料)・購入
常滑焼	渡辺章製陶所	常滑市栄町 6-203 ☎ 0569-34-3849 http://www.toko.or.jp/syukouzan/	見学・体験(有料)・購入
常滑焼	義翠窯	常滑市栄町 4-39 ☎ 0569-34-2736 http://www.toko.or.jp/gisui/	見学・体験(有料)・購入
常滑焼	TOKONAME STORE	常滑市原松町 6-70-2 ☎ 0569-36-0655 http://tokonamestore.com/	見学・体験(有料)・購入
常滑焼	晴光	常滑市栄町 3-91 ☎ 0569-34-2094 http://www.tougei-seiko.com/	見学・体験(有料)・購入
常滑焼	光きゅうす	常滑市金山字上砂原 103 ☎ 0569-43-7233 http://www.tac-net.ne.jp/~gyokko/	見学・体験(有料)・購入
常滑焼	陶工サロン 一心窯	常滑市栄町 3-88 ☎ 0569-35-6255 http://www.toko.or.jp/issin/	見学・購入
常滑焼	ギャラリー 敏	常滑市栄町 2-33 ☎ 090-6649-0572 https://www.g-toshi.com/	見学・体験(有料)・購入
名古屋仏壇	名古屋仏壇 商工協同組合	名古屋市中区橘 1-6-5 大野屋ビル 1F ☎ 052-321-5608 http://nagoya-but sudan.net/	見学・体験(製作体験は 有料)・購入
三河仏壇	三河仏壇 振興協同組合	岡崎市門前町 51 ☎ 0564-24-7766 http://mikawabutudan.com/	見学・体験(有料)・購入
豊橋筆	(株)杉浦製筆所	豊橋市三ノ輪町 5-13 ☎ 0532-61-8155	見学・体験(有料)・購入
豊橋筆	(有)榊原毛筆	豊橋市東田町 37 ☎ 0532-61-7642	見学・体験(有料)・購入

工芸品名	施設・事業所名	住所・電話番号・HP アドレス	
豊橋筆	豊橋筆嵩山工房	豊橋市嵩山町下角庵 1-8 ☎ 0532-88-2504 https://www.toyohashi-fude.com/	見学・体験(有料)・購入
豊橋筆	(有)高誠堂	豊橋市呉服町 44 番地 ☎ 0532-52-5514	購入
赤津焼	赤津焼会館	瀬戸市赤津町 94-4 ☎ 0561-21-6508	休館中
赤津焼	稲山陶苑	瀬戸市赤津町 135 ☎ 0561-82-4844	見学・体験(有料)・購入
赤津焼	晴峰窯(弄月窯)	瀬戸市赤津町 43 ☎ 0561-82-0149	見学・体験(有料)・購入
赤津焼	飽津窯	瀬戸市赤津町 22 ☎ 0561-82-6803	見学・体験(有料)・購入
赤津焼	玉樹窯	瀬戸市窯元町 162 ☎ 0561-82-8091	見学・購入
赤津焼	(資)六兵衛製陶所	瀬戸市赤津町 38 ☎ 0561-82-4585	見学・購入
赤津焼	野田東山	瀬戸市西窯町 87 ☎ 0561-82-8231	休業中
岡崎石工品	岡崎石製品工業協同組合	岡崎市花崗町 5 番地 ☎ 0564-22-0455 https://www.ishi-okazaki.jp/	見学・体験(有料)・購入
岡崎石工品	岡崎石工団地協同組合	岡崎市上佐々木町字梅ノ木 48 番地 ☎ 0564-31-3823 http://osd.tukai.jp/	見学・体験(有料)・購入
名古屋桐箆筒	名古屋桐たんす工房出雲屋	春日井市前並町前並 8-4 (有)出雲屋家具製作所 内 ☎ 0568-31-8627 https://izumoya.co.jp/	見学・購入
名古屋桐箆筒	伊藤タンス店	名古屋市中区平和 2-7-15 ☎ 052-321-5756 http://www7a.biglobe.ne.jp/~ito-tansu/	見学・購入
名古屋友禅	友禅工房 堀部	名古屋市西区万代町 1-28 ☎ 052-531-9875 https://www.horibekoubou.com/	見学・体験(染物体験は有料)・購入
名古屋友禅	彩・工房	一宮市瀬部大塚 48-4 ☎ 0586-78-7227	見学・体験(製作体験は有料)
名古屋友禅	(資)赤塚染工場	名古屋市北区大蔵町 6 番地 ☎ 052-981-0997 https://akatsukasenkojo.com	見学・体験(染物体験は有料)・購入
名古屋黒紋付染	山勝染工(株)	名古屋市西区城西 2-6-28 ☎ 052-523-1601 https://yamakatu.co.jp/	見学・体験(染物体験は有料)・購入
名古屋黒紋付染	(株)武田染工	名古屋市天白区池場 4-1309 ☎ 052-801-4090 https://takedasenko.jp/	見学・体験(染物体験は有料)
尾張七宝	あま市七宝焼アートヴィレッジ	あま市七宝町遠島十三割 2000 ☎ 052-443-7588 https://www.shippoyaki.jp/	見学(実演見学可能)・体験(有料)・購入
瀬戸染付焼	瀬戸染付工芸館	瀬戸市西郷町 98 ☎ 0561-89-6001 http://www.seto-cul.jp/sometsuke/index.html	見学・体験(製作体験は往復はがきによる抽選・有料)
瀬戸染付焼	オンリーワン陶芸教室	瀬戸市窯町 296 ☎ 0561-41-0135 https://www.kazan-onlyone.com/	見学・体験(有料)・購入
三州鬼瓦工芸品	鬼百	碧南市千福町 5-68 ☎ 0566-41-1352 http://www.onihyaku.com	見学・購入
三州鬼瓦工芸品	(株)神仲	高浜市清水町 3 丁目 3-1 ☎ 0566-53-1532 http://www.sansyuu.net/kaminaka/	購入
三州鬼瓦工芸品	萩原製陶所	高浜市青木町 7 丁目 6-32 ☎ 0566-53-0070	見学・体験(有料)・購入
三州鬼瓦工芸品	(株)丸市	高浜市屋敷町 1-2-2 ☎ 0566-53-0471 http://www.sansyuu.net/maruichi/	見学・体験(有料)・購入
三州鬼瓦工芸品	(有)岩月鬼瓦	高浜市田戸町 7-3-43 ☎ 0566-53-0171 https://www.e-oni.com	体験(有料)・購入
名古屋節句飾	(有)安藤商店	岐阜県岐阜市梶川町 7 番地 ☎ 058-262-8250 https://ando-chochin.jp/	見学・体験(有料)・購入
名古屋節句飾	(有)加藤人形	名古屋市守山区小幡 2 丁目 16 番 20 号 ☎ 052-793-1531 https://katodoll.web.fc2.com/	見学・体験(有料)・購入
名古屋節句飾	(有)山田人形店	北名古屋市鹿田東海 135 ☎ 0568-21-0173 http://www.yamadaningyou.jp/	見学・購入

あいちの地場産業

愛知県の盛んなモノづくりを支える基盤である繊維産業や窯業、伝統的工芸品などの歴史ある地場産業をご紹介します。

<https://www.pref.aichi.jp/sangyoshinko/jibasangyo/>



伝統マーク
承認番号R7-324

この伝統マークを使った伝統証紙が貼られている工芸品は、産地組合等が実施する検査に合格した経済産業大臣指定伝統的工芸品です。

●伝統的工芸品とは

知っておきたい
伝統的工芸品の条件

- ①主として日常生活に使われるもの
- ②ほとんど手作業で製造されたもの
- ③伝統的な技術や技法によって製造されたもの
- ④伝統的に使用されてきた原材料を使っているもの
- ⑤一定の地域に生産者が集まっていること

愛知県経済産業局産業部産業振興課
電話 052(954)6341(ダイヤルイン)
FAX 052(954)6976

令和8年3月発行